

# 2025年度 探究活動 報告書



## 1. 活動テーマ

作成日 2025年8月15日

### <テーマ>

本物のお神輿を作ってみよう！	園名	ヒューマンアカデミー大倉山保育園		
	クラス	5歳児（らいおんぐみ）	人数	17名

### <テーマ設定理由>

- ・当園の夏祭り（たなばた星まつり）にて年長児がお神輿を担ぐのが伝統となっている。その年の子どもたちの好きなことをテーマにお神輿作りを行っている。
- ・例年は、魚が好き⇒ジンベイザメが載っている・恐竜が好き⇒ティラノサウルスが載っているなど。
- ・今年は「本物っぽいお神輿を作りたい！」と声があがり、制作をしていくこととなった。

## 2. 活動スケジュール

- ・6/4（水）：師岡熊野神社の氏子総代会の鈴木さんをお願いして、神社にある宮神輿を見せていただく。神輿に込められている想いや意味などを丁寧に教えていただいた。
- ・6/5（木）～順次お神輿作りがスタート。
- ・7/5（土）たなばた星まつりにて、保護者の前で作成したお神輿を担ぐ。
- ・7/5（土）及び6日（日）師岡熊野神社の星祭にて神社の神輿と共に子どもたちが作成したお神輿と一緒に展示していただく。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・町内会⇒師岡熊野神社へお願いしてお神輿を見せていただけないか依頼。
- ・図書館へ行き、神輿や祭りに関する絵本等を借り、イメージを共有。
- ・お神輿作りでは、パーツごとに子どもたちが担当に分かれて行った。順番に作り、どんな素材で作ったらいいかを話し合いながら、素材や作り方を決めていけるようにした。

## 4. 探究活動の実践

### <活動内容>

- ・お神輿制作  
⇒屋根、柱、鳳凰、ヤタガラス、飾り綱、鈴、鳥居、ロゴマークなどを作っていった。
- ・行事の当日は保護者や他クラスの子どもの前で、飾りの意味などを話す時間を設け、取り組んできたプロセスを伝えられるように工夫。

## <活動中のこどもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

①お神輿ってなんだ？図書館で調べてみよう！「お神輿って神様がのってるんだって」



②熊野神社の宮神輿を見せていただく。神輿に込められている意味や思いを教えてください。



「どんな飾りがついているの？」「一番上に載っているのは何？」「どうしたら上手に担げるの？」と子どもたちからも質問をしていた。

③製作開始

・「ヤタガラス作り」⇒熊野神社の社紋のヤタガラス。「足が3本あるんだよ」。体がトイレットペーパー、目はビーズで作りました。



・「鈴作り」⇒鈴がついているのは、「周りの人にお神輿がきたよって教えるため」「魔除けのため」ガチャガチャのカプセルにビーズを入れて作りました。



④お神輿完成



⑤お神輿を担ごう！！

担ぐ前にはお神輿作りのポイントを説明しました。  
「お神輿の一番上に載っているのは鳳凰です。  
17人全員で力を合わせて「ワッショイ！ワッショイ！」  
※当日はお神輿のことを教えてくれた方も見に来てくれました



⑥お神輿を展示してもらおう！

同日に行われた、師岡熊野神社の星祭のお神輿展示にて、子どもたちが作ったお神輿も一緒に展示していただきました。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育士の気づき>

毎年恒例のお神輿制作だが、今年は例年と違い「本物」がテーマとなった。地域の皆さまのご協力も得ながら、本物の神輿の意味や由来、飾りの意味などを子どもたちが知り、再現をして作るというプロセスは子どもたちにとって良い学びの機会となった。園が目指している、「遊びの中の学び」「子ども主体の保育」を体現する形になったのではないかと。10月の神社のお祭りの時にも、一緒に担がないかとご提案をいただいているので連携をしながら進めていきたい。

# 2025年度 探究活動 報告書



## 1. 活動テーマ

作成日 2026年2月27日

### <テーマ>

博士がやってきた！	園名	ヒューマンアカデミー大倉山保育園		
	クラス	4歳児（ぞうぐみ）	人数	18名

### <テーマ設定理由>

・今年度の4歳児クラスは年間を通して様々な実験遊び（松ぼっくり実験、水実験、光実験、シャボン玉実験等）を行ってきた。これらの実験では、子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という気持ちを大切に実験を行い、「やってみてどうだった?」「という振り返りを繰り返す中で、子どもたちの興味も広がり、年間を通して実験遊びを楽しんでいた子どもたちであった。  
・とある研修の中でこれらの実験遊びの活動を発表していたところ、「専門的なプロの力を借りて活動してみたらもっと豊かになるのでは?」と助言をいただき、連携できる大学を探していたところ、神奈川工科大学さんが興味をもっていただき、保育園にて出張講座をしてくれることとなった。

## 2. 活動スケジュール

・11/12（水）：神奈川工科大学出張講座  
※今回の講座をしようとしたレゴのセットを3月末までお借りし、継続した活動を実施。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のための準備)  
・神奈川工科大学との事前の打ち合わせ  
・当日は教授1名、地域貢献センター職員1名、学生2名に訪問をしていただいた。  
(環境設定)  
・保育室を2つに区切り、それぞれの体験を行えるようにした。

## 4. 探究活動の実践

### <活動内容>

- ★LEGO (LEGO Education) を使用した歯車実験
- ★プログラミング実験（モーターをipadを使って自分で動かしてみる）
- ・各40分ずつ体験を行った。

## <活動中のこどもの姿・声、こども同士や保育者との関わり>

### 【歯車実験】

テーマ：歯車を同時に6つ回せるか

- ・見本を見ながら、歯車を組み合わせていく。「ここかな?」「こっちだとうまく回らないから…こっちにつけてみたらどうかな?」と何度もつけたり、外したりを繰り返していた。
- ・6つ同時に回ると教授に嬉しそうに伝えていた。



### 【プログラミング実験】

テーマ：モーターを動かしてみよう

- ・ipadを使用し、「右回りに何秒回転」「左回りに何秒回転」「ランプを赤色に点滅」「効果音は〇〇」等と自身でプログラミングをしていく。
- ・プログラミングをしたものを動かしてみると、その通りに動くことに驚きつつも、「今度は右回りに5秒にしてみよう」「効果音はこの音はどうだろう?」と自身で感覚的に取り組んでいく様子が印象的であった。



### 【その後…】

- ・引き続きお借りをした、LEGOセットを使って各種実験。  
①駒づくり ②カーランチャー ③アイスホッケー選手
- 繰り返すごとに、「こっつけたら動くかな?」「こうしたら遠くまで走るんじゃないか?」「歯車がついているものって何があるのかな?」とものづくりの性質や仕組みに興味を持つ子が増えてきた。
- ・3月にはこれまで実験してきたものを、他クラスの子どもたちに「教えたい! 伝えたい!」という思いが強まり、子どもたちが先生となり、教えてあげる会を実施予定となっている。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た保育士の気づき>

- ・各40分間の体験であったが全員の子どもたちが集中をして取り組んでいた。背景にはこれまでの実験あそびの積み重ねがあったからだと感じた。日頃から子どもたちの「なぜ?」「どうして?」という気持ちを大切にしてきたからこそ集中して取り組めていたのではないかと感じた。
- ・実験遊びを繰り返す中で、「博士が保育園にやってくる」というところまで発展した。地域資源を活用し、子どもたちに豊かな体験ができる貴重な機会となった。
- ・保護者の方々にも関心が広がり、近くのプログラミング教室を探してみようかなというお声も聞かれた。